



## しが旅のススメ



長浜観光協会は来年1月10日～3月10日に、長浜市港町の慶雲館で新春の風物詩「長浜盆梅展」を開催します。盆梅とは鉢植えの梅、つまり梅の盆栽のこと。開花時期に応じ、約300鉢から常時約90鉢を展示し、中には高さ3m近くの巨木や、樹齢400年と伝わる古木もあります。

1952（昭和27）年から始まった盆梅展は、今回で74回目です。その歴史は、大正期に高山（現長浜市高山町）で養蚕業を営んでいた高山七蔵を起源としています。

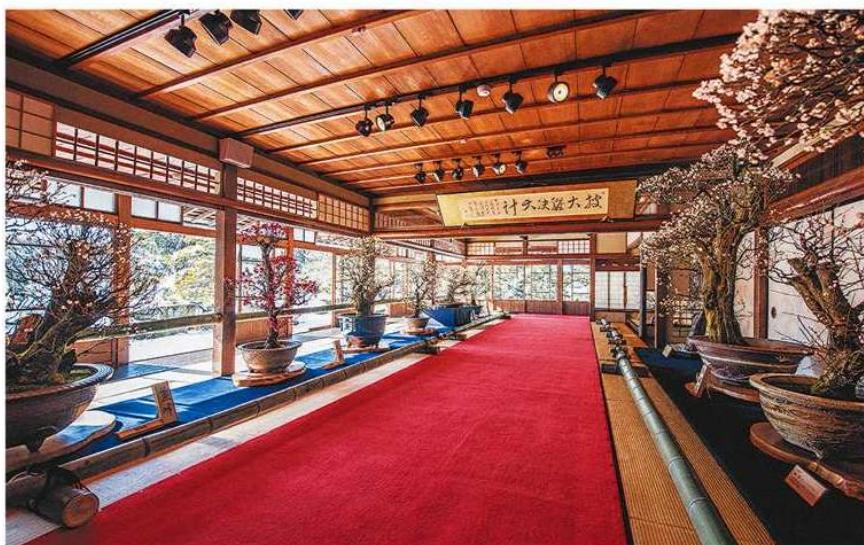


長浜盆梅展を紹介するHPはこちから



### ■ 長浜盆梅展（長浜市）

## 起源は大正 人気の風物詩



本館の座敷に並ぶ圧巻の盆梅=いずれも長浜市港町の慶雲館で



ライトアップ期間中に  
楽しめる幻想的な盆梅



これまでの「しが旅のススメ」はこちから

650

【アクセス情報】慶雲館へはJR長浜駅びわこ口（西口）から徒歩3分。車は北陸自動車道長浜インター（IC）から15分、米原ICから20分。電話番号0749（53）2

（長浜観光協会・高木祥次） ◇

【アクセス情報】慶雲館

ます。当時は梅干しが外での仕事に欠かせない保存食だったため、山や畑には梅の木が植えてありました。七歳は毎年、枝ぶりのいい梅の古木を掘り起こし、大きなの仕事に欠かせない保存食だったため、山や畑には梅の木が植えてありました。七歳は毎年、枝ぶりのいい

鉢植えに入れて家の玄関に飾っていました。そして花の見頃になると、多くの人たちが観覽しにやってきました。

51（昭和26）年に、66歳

の七歳は40年近くにわたって育てた盆梅約40鉢を長浜市へ寄贈します。その翌年に盆梅展が始まりました。

その歴史や規模から、今や日本一の盆梅展として人気があり、関西の風物詩となっています。

今回も本館では、明治建築の純和室にずらりと並ぶ盆梅が訪れる人を魅了します。新館では本年度初の試みとして、「心を写す写心家」戸岡司氏（スタジオアジユール代表）と盆梅のコレクションを実施。「森羅万象（水）」をテーマにした展示が登場します。

竹明かりに照らされた梅の花の様子は、日中とは異なる趣が味わえます。

また、ライトアップの時期には自慢の庭園が幻想的な世界に誘います。一人でも多くの方の来場をお待ち

しています。

60日間の期間中は無休で開催します。料金は大人800円、小学生400円で、観覧時間は午前9時～午後5時です。1月25日～2月24日の土日祝は時間を午後7時半まで延長します。また、ライトアップもします。